

---

# クリニックの外来診療

# クリニックの実施成績

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック

## はじめに

保健会館クリニックは、一般外来、専門外来、老人保健法による新宿区地域住民の健康診査およびがん検診の実施など多彩な内容を包含している。

一般外来は地域住民の診療および職域における定期健康診査で抽出された異常所見者の診療や事後指導を実施している。専門外来は甲状腺、消化器、循環器、糖尿病、肝臓病、腎臓病、呼吸器、整形、乳腺、婦人科(子宮がん)代謝、更年期および心療内科の13科と小児相談室で構成される。専門外来受診者は東京都予防医学協会(以下「本会」)が実施する人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診査、学校

保健法による児童・生徒の健康診断、老人保健法による健康診査などで要精密検査と判定された人のうち、当クリニックの受診を希望された場合、または一般外来で専門外来の受診を必要とされた人を対象に、クリニック常勤医師および外部(東京医科大学、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、慶応義塾大学医学部、癌研有明病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医が診療にあたっている。

## 2005年度の実績

表1に2005(平成17)年度の外来受診実績数を示

表1 クリニックの月別・科別受診者

(2005年度)

科目	月													計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
一般内科外来	279	231	226	249	226	206	240	266	230	242	305	294	2,994	
専門外来	消化器(胃)外来	266	231	273	291	404	299	345	403	410	346	375	384	4,027
	循環器外来	128	91	98	120	112	72	103	78	114	89	111	94	1,210
	糖尿病外来	67	59	46	58	50	49	84	58	56	57	64	46	694
	腎臓病外来	13	11	11	11	10	11	9	12	10	13	12	12	135
	肝臓病外来	41	34	41	53	62	57	38	39	36	31	50	35	517
	呼吸器外来	53	51	54	56	64	48	51	48	52	36	37	33	583
	整形外科外来	10	16	12	19	18	24	19	25	22	17	22	21	225
	乳腺外来	144	143	164	169	149	113	120	148	117	76	107	102	1,552
	婦人科外来	183	133	160	178	230	198	193	214	195	137	136	142	2,099
	甲状腺外来	252	200	245	248	312	288	249	245	297	215	247	339	3,137
	更年期外来	41	53	40	27	31	31	45	39	45	32	37	36	457
	心療内科外来	46	41	47	34	42	47	56	47	54	44	48	46	552
	代謝外来	7	14	10	3	10	5	6	13	18	14	8	7	115
外来栄養指導	3	3	6	3	8	3	2	2	3	0	5	4	42	
小児腎臓病	1	1	4	5	5	7	2	4	6	0	2	4	41	
小児貧血	0	2	1	3	4	3	1	2	1	0	2	2	21	
相談心臓病	3	7	5	5	5	6	-	5	5	4	2	5	52	
相談心臓病	45	3	7	2	35	1	5	2	3	4	3	9	119	
相談脊柱側弯症	24	19	15	28	34	12	13	15	26	8	10	30	234	
合計	1,606	1,343	1,465	1,562	1,811	1,480	1,581	1,665	1,700	1,365	1,583	1,645	18,806	

す。総受診者は18,806人であり2004年度よりわずか(3.4%)に増加している。科別の受診頻度は、消化器外来21.4%, 甲状腺外来16.7%, 一般内科15.9%, 婦人科外来11.2%, 乳房外来8.3%である。

### 専門外来の特徴

#### [1] 消化器外来

表2に消化器外来における胃・内視鏡検査実績を示す。

事業者負担分627人、保険扱いは1,116人、計1,743人であり2004年度に比較して6.9%増加している。月別には4月から7月は比較的少なく8月以降が増加傾向にある。生検実施数は事業者負担分246人、保険扱い分462人、計708であり内視鏡検査実施数の39.7%である。このうち腫瘍発見数は21人であり、陽性反応適中度は2.97%であった。

表3に年度別の消化器外来の実績を示す。2005年は2004年度に比較して外来数、胃内視鏡件数、および生検数はほぼ近似しているが発見腫瘍数は10人から21人に増加した。このことは新たな母集団の集積が考えられるが、精度管理向上も一因と考える。

#### [2] 甲状腺外来

担当の百溪尚子医師は世界的に高名な甲状腺学者であり、その専門性を頼って広く首都圏からの受診者が多い。

#### [3] 婦人科外来

東京産婦人科医会の会員より紹介された受診者、および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のPapニコロウ分類Ⅲa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査、細胞診、および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている。

#### [4] 乳腺外来

東京産婦人科医会の会員より紹介された受診者、地域、職域を対象に実施した乳がん検診で要精密検査と判定された受診者を対象に視触診、マンモグラ

表2 胃・内視鏡検査月別実施数

		(2005年度)												計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実施数	集 検	39 (39)	26 (26)	35 (35)	47 (47)	59 (59)	66 (66)	80 (80)	64 (64)	64 (64)	65 (65)	42 (42)	40 (40)	627 (627)
	外 来	85	58	83	76	116	85	78	106	99	78	140	112	1,116
計		124	84	118	123	175	151	158	170	163	143	182	152	1,743
生 検	食 道	5 (2)	0 (1)	3 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (3)	2 (1)	1 (1)	1 (2)	3 (0)	18 (12)
	胃	36 (16)	21 (11)	34 (12)	40 (25)	52 (26)	40 (34)	28 (18)	36 (20)	33 (28)	26 (23)	58 (11)	40 (10)	444 (234)
	計	41 (18)	21 (12)	37 (12)	40 (26)	54 (26)	40 (34)	28 (19)	37 (23)	35 (29)	27 (24)	59 (13)	43 (10)	462 (246)
腫瘍発見数		4	0	2	3	2	1	1	2	1	1	1	3	21

うち( )は事業者負担分

表3 年度別の消化器外来の受診者数と胃内視鏡件数・生検数・発見腫瘍数

(1983~2005年度)				
年 度	消化器外来受診者	胃内視鏡件数	生検数	腫瘍発見数
1983	3,231	408	40	13
1984	3,064	398	58	11
1985	3,795	366	148	8
1986	3,634	326	135	15
1987	3,611	313	80	12
1988	4,778	554	194	13
1989	5,080	614	290	21
1990	6,544	1,046	560	39
1991	5,858	1,616	1,086	39
1992	8,303	1,552	981	32
1993	8,393	1,490	962	29
1994	9,352	1,909	1,267	40
1995	8,458	1,671	1,010	36
1996	7,835	1,740	1,165	32
1997	8,171	1,702	1,082	30
1998	8,399	1,671	1,140	40
1999	7,459	1,549	1,004	28
2000	6,936	1,610	941	42
2001	6,574	1,739	1,111	29
2002	6,635	1,679	931	23
2003	4,278	1,531	757	18
2004	4,113	1,623	737	10
2005	4,027	1,743	708	21

フィ、乳房超音波検査、乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診などにより質的診断を実施している。

#### [5] 循環器外来

職域定期健康診査、人間ドックなどで、要精密検査、要受診と判定されたうち、当クリニック受診希望者および地域の高血圧、心臓疾患患者を診療している。

#### [6] 呼吸器外来

マルチスライスCTを用いて早期肺がん発見を目標

に診療を実施している。

〔7〕更年期外来

通常の外来で、更年期障害を訴える女性を対象に実施している。

〔8〕心療内科外来

2004年度受診者420人、2005年度受診者552人であり、23.1%の増加を見た。時代を反映した、メンタルヘルスケアの増加と考える。

新宿区成人健康診査について

表4に老人保健法による新宿区成人健康審査の経年的受診者数と受診項目を示す。2005年の特徴は子宮がん検診と乳がん検診の増加である。乳がん検診は2004年は視触診のみ、2005年はマンモグラフィ

との併用検診を実施したため受診者数の増加を見た。一方、ペプシノゲン検査は低迷しており、2005年度より導入した前立腺がん検診も少数であった。

表5に新宿区成人健康診査の性別年齢別受診者数と比率を示す。男性受診者は極めて少なく(82人)、女性受診者はやや多い(219人)傾向を示した。年齢構成では男性は65歳～69歳に、女性は70歳～74歳にピークを認めた。このうち男性においては、64歳以下の男性が職域検診を受診しているためと推定される。

表6に健康診査の男女別疾患別有所見率を示す。男性82人中68人(82.9%)に異常所見を認め、女性は219人中184人(84%)に異常所見を認めた。男性の疾患別有所見率は高脂血症(35.4%)、高血圧(34.0%)の順位であり、女性は高脂血症(51.1%)、腎疾患(19.6%)

表4 新宿区成人健康診査の検診別・年度別受診者数

(2001～2005年度)

	成人健診	肝炎検査	胃・大腸	胃単独	大腸単独	肺がん検診	子宮がん検診	乳がん検診	ペプシノゲン検査	前立腺がん検査
2001	243		129	7	28	91	118	62		
2002	327	102	258	11	39	185	271	256		
2003	363	76	223	16	49	178	260	272	42	
2004	333	57	224	20	71	208	299	182	27	
2005	301	33	188	10	52	168	453	426	25	69

表5 新宿区成人健康審査の性別・年齢別受診者数

(2005年度)

		50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	計
男 性	受診者数	3	14	25	18	17	5	82
	(%)	(3.7)	(17.1)	(30.5)	(22.0)	(20.7)	(6.1)	(100)
女 性	受診者数	36	45	43	50	29	16	219
	(%)	(16.4)	(20.5)	(19.6)	(22.5)	(13.2)	(7.3)	(100)
合 計	受診者数	39	59	68	68	46	21	301
	(%)	(13)	(19.6)	(22.6)	(22.6)	(15.3)	(7.6)	(100)

表6 新宿区成人健康審査の性別・疾患別有所見率

(2005年度)

受診者数	所見名	高血圧	貧血	肝機能障害	アルコール性肝障害	糖尿病	心疾患	高脂血症	高尿酸血症	腎疾患	呼吸器疾患	その他	有所見合計
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)		
男 82		28 (34%)	8 (9.8)	8 (9.8)	5 (6.1)	12 (14.6)	7 (8.5)	29 (35.4)	14 (7.1)	9 (11)	4 (4.9)	3 (3.7)	127
女 219		42 (19.2)	13 (5.4)	7 (3.2)	1 (0.5)	12 (5.5)	23 (10.5)	112 (51.1)	4 (1.8)	48 (21.9)	18 (8.2)	31 (14.2)	273
合計 301		70 (23.3)	21 (7.0)	15 (5.0)	6 (2.0)	24 (7.9)	30 (10.0)	141 (46.8)	18 (6.0)	57 (19.6)	22 (7.3)	34 (11.3)	400

であった。女性の高脂血症は閉経後に依存するものが多く、腎疾患の多くは無症候性の潜血尿に起因した。

表7に胃検診による性別年齢別発見疾患を示す。受診者200人のうち、異常なしは54.5%であった。有所見の頻度は胃潰瘍(13.5%)、胃炎(12%)であり、悪性腫瘍は認めない。

表8に大腸がん検診数を示す。検診法は免疫学的便潜血反応によるスクリーニングである。受診者数は男性66人女性174人であり、このうち、男性8人(12.1%)、女性8人(4.6%)に異常を認め、それぞれ基幹病院に紹介した。

## その他

日本消化器がん検診学会の胃標準化撮影に従って、前壁レリーフ像を多く取り入れた撮影をスキルの高い技師が撮影している。フィルムは医師により、ダブル～トリプルリーディングを実施し、偽陽性、偽陰性を減少させてきた。今後更なる精度管理の向上が必要である。

一方、ペプシノゲン検査、肝炎ウイルス検診は極めて少ない。胃がん、肝細胞がんの予防、抑止のためにはさらにこれらを流布しなければならない。

表8 新宿区大腸がん検診集計表

(2005年度)						
受診者数	男	女	異常なし		要精検	
			男	女	男	女
240	66	174	58	166	8	8
100.0%	27.5%	72.5%	87.9%	95.4%	12.1%	4.6%

表7 新宿区胃検診による性別・年齢別発見疾患数

(2005年度)																				
性 年齢	所見 受診者数	異常なし A	切除胃 B	憩室		胃炎		胃潰瘍*		十二指腸潰瘍*		胃・十二指腸潰瘍*		胃ポリープ(疑含む)		胆のう疾患(疑含む)		その他	胃がん( )は早期	食道がん
				B~D	E	B~D	EFG	B~D	EFG	B~D	EFG	B~D	EFG	D	EFG					
男	~29																			
	30~34																			
	35~39	4	3						1											
	40~44	5	5																	
	45~49	2	2																	
	50~54	4	2						1				1							
	55~59	3	2						1											
	60~64	10	4		1		1	2	1										1	
	65~69	13	4					5	3		1									
	70~	15	5				1	3	6											
	計	56	27	0	1	0	2	10	0	13	0	1	0	0	0	1	0	0	1	
女	~29																			
	30~34																			
	35~39	6	6																	
	40~44	21	16					1						3					1	
	45~49	5	3											1	1					
	50~54	15	11						2					1	1					
	55~59	23	14				2	3	2					1			1			
	60~64	25	9				3	2	5	2				2	1		1			
	65~69	17	8		1			4	1					1	1				1	
	70~	32	15				1	4	4					5	2				1	
	計	144	82	0	1	0	6	14	0	14	2	0	0	1	14	5	0	2	3	
	合計	200	109	0	2	0	8	24	0	27	2	1	0	1	14	6	0	2	4	
	%	100.00	54.50	0.00	1.00	0.00	4.00	12.00	0.00	13.50	1.00	0.50	0.00	0.50	7.00	3.00	0.00	1.00	2.00	

注・印は、癌痕を含む A・異常なし B・差支えなし C・生活注意 D・要経過観察 E・要受診 F・要治療 G・要治療継続